

特集号「炭素の最新分析技術」投稿募集

「炭素」編集委員会
 主担当委員 後藤和馬
 担当委員 山田泰弘
 村松寛之

無機材料や有機材料の開発・発展の歴史は、合成技術や応用技術の歴史であると共に分析技術の歴史でもあります。炭素材料や様々な炭素化合物においても、X線回折や赤外・ラマン分光などの各種分光分析、光学顕微鏡や電子顕微鏡による観察、あるいは吸着分析などによって、材料の内部や表面の構造、様々な特性が明らかにされてきました。近年のナノカーボン研究においても、高分解能電子顕微鏡技術の発展がその発見の決め手となったことや、放射光を用いた解析が構造解析に大きな役割を果たしていることは広く知られているところです。

近年のナノテクノロジーや情報処理技術のめざましい発展は、各種分析手段の測定感度・精度向上に大きな恩恵をもたらしているだけでなく、10~20年前では予想もされていなかった新たな測定手法の開発にもつながっています。(例：超高分解能電子顕微鏡、放射光分析、高磁場NMR、高感度元素分析、計算化学の新手法、など)このような分析法の中には、炭素材料の解析に利用されて最新の研究成果を出しているものもあれば、炭素材料への適用例はまだあまりないものの将来的に重要になると期待されるものも多くあります。このような分析技術の現状について特集として本誌上で知識の共有を図ることが、今後の炭素材料の発展のために大きな意味を持つと考えました。

本特集では、最新分析技術を用いた炭素および無機材料の解析研究成果を募集いたします。特集の目的に鑑み、直接的に炭素材料に適用された分析例だけでなく、今後炭素および炭素関連材料の解析に利用できると期待される分析研究や、シミュレーション、電気化学的、力学的な手法なども含め、幅広い内容を対象とします。分析法自体についての描写を主目的にする論文だけでなく、材料解析に(既存技術だけでなく)新しい分析技術を加えてより詳細な性質を明らかにした論文なども含みます。本特集により、既存の炭素材料の解析に新たな手法の導入が進み、炭素材料研究の発展につながることを期待します。ぜひ、多方面の研究者・技術者の皆様からのご投稿をいただけますようお願い申し上げます。

投稿方法：はじめに、下記の応募締切日までに炭素材料学会編集事務局へ投稿のご予定をご連絡ください。そのうえで「炭素」投稿規定・投稿の手引きに従って原稿を作成し、特集号への投稿であることを明記のうえ、下記の原稿締切日までに炭素材料学会編集事務局へご投稿ください。

応募締切：2018年5月11日(金)

投稿原稿の区分、タイトル、著者、連絡先を明記のうえ、E-mailにて炭素材料学会編集事務局(tanso-edit@bunken.co.jp)へ電子メールにてお申込みください。郵送にて下記の住所にお送りいただいても結構です。

原稿締切：2018年6月15日(金)

原稿の区分：論文(刷上り6頁以内)、総合論文(同10頁以内)、ノート(同3頁以内)、技術報告(同3頁以内)

内容：上記分野におけるオリジナルな内容で、印刷物として未発表のもの。原稿区分の説明については投稿規定をご覧ください。

審査：応募原稿は、通常の炭素誌への投稿原稿と同様の審査を行う。

掲載：炭素285号(2018年11月発刊予定)

投稿規程・投稿の手引き：<http://www.tanso.org/contents/journal/notice2017.pdf>

申込・問合せ先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19

(株)国際文献社内 炭素材料学会編集事務局

TEL: 03-5389-6492 FAX: 03-3368-2830 E-mail: tanso-edit@bunken.co.jp